令和4年度　　施策評価表（令和3年度の実績評価）

記入年月日
令和　4　年　6　月　17　日

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	学校教育課	主管課長名	初芝　保
2-1	施策名	学校教育の充実	関係課	教育指導課、生涯学習課、給食センター、幼稚園		

1．施策の目的と成果把握

目的

施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
児童，生徒（幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の児童生徒）	①児童数（小学生・義務教育学校前期生）	人	見込値	2,002	1,977	1,908	1,782	1,718
			実績値	1,998	1,976	1,898	1,792	1,752
	②生徒数（中学生・義務教育学校後期生）	人	見込値	1,143	1,087	1,063	1,039	1,042
			実績値	1,133	1,064	1,055	993	997
	③幼稚園児数	人	見込値	51	36	20	0	0
			実績値	52	32	9	0	0

施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
学力・心・体の調和の取れた人材が育まれている。	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合	%	目標値	小:95.0% 中:86.0%	小:96.0% 中:88.0%	小:96.0% 中:88.0%	小:97.0% 中:90.0%	小:97.0% 中:90.0%
			実績値	小:99.0% 中:84.8%	小:92.7% 中:87.1%	小:89.9% 中:78.3%	小92.7% 中90.0%	小93.0% 中93.0%
	②学力診断テスト結果（県平均正答率との比較）	%	目標値	小:＋13.0% 中:＋ 9.0%	小:＋14.0% 中:＋ 9.0%	小:＋14.0% 中:＋ 9.0%	小:＋15.0% 中:＋10.0%	小:＋15.0% 中:＋10.0%
			実績値	小:+14.7% 中:+ 1.9%	小:+11.4% 中:+ 5.1%	小:+18.1% 中:+ 2.9%	コロナのため 未実施	小:+13.9% 中:+ 11.1%
	③体力テスト結果（県平均との比較）	%	目標値	小:＋ 9.0% 中:＋ 6.0%	小:＋ 9.0% 中:＋ 7.0%	小:＋ 9.0% 中:＋ 7.0%	小:＋10.0% 中:＋ 8.0%	小:＋10.0% 中:＋ 8.0%
			実績値	小:+11.3% 中:+ 5.2%	小:+ 8.9% 中:+ 1.3%	小:+9.9% 中:+0.6%	コロナのため 未実施	小:+15.7% 中:+10.3%
	④適正規模を維持できていない学校数	校	目標値	9	8	8	6	6
			実績値	9	8	8	8	8

成果指標設定の考え方	○学力診断テストの結果により「学力」を、体力テストの結果により「体」を、学校が楽しいと思うことは「心」をそれぞれ判断し、「学力・体力・心」の調和の取れた人材が育まれているかどうか判断する。
成果指標の把握方法と算定式等	①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は、各種調査・アンケートより求める。②学力診断テスト結果（県平均正答率との比較）は、県学力診断のためのテスト結果より求める。③体力テスト結果（県平均との比較）は、体力・運動能力調査結果より求める。④適正規模を維持できていない学校数は、1学年1クラスしかない学校数。※児童生徒数は各年5月1現在の数値）

2．施策の成果水準とその背景・要因

1）現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は以前からみて成果は向上したのか，低下したのか，その要因は？）

実績比較			
	☐ 成果がかなり向上した	☑ 成果がどちらかといえば向上した	☐ 成果がほとんど変わらない（横ばい状態）
	☐ 成果がどちらかといえば低下した	☐ 成果がかなり低下した	

背景・要因

①小中義務教育学校ともに前年度より「学校が楽しい」と思う児童生徒は前年度より上昇した。本市では補助金を活用して新型コロナウイルス感染症対策を行い、修学旅行等の学校行事や特別活動を工夫して実施したこと、また、コロナによる臨時休校が学校の楽しさを再認識させたと考える。
②県の学力診断テストにおいて、小学校、中学校、義務教育学校ともに県の平均を上回ることができた。一人一台端末の整備し、それを使用する環境を整えたことで、ICTを活用した授業改善を各学校が行えるようにした。さらに、授業目的公衆送信補償金制度に加入していたことにより、臨時休業中において、全校・全学級において同時双方向のオンライン授業実施することができ、子供たちの学びの保障につながった。
③体力テスト委託事業により、本市の体力テストの結果の集計が迅速にでき、それを生かして学校が体力づくりを推進することができた。その結果、全ての小・中・義務教育学校において県の平均の値よりも上回り、目標を達成した。さらに健康推進課と連携し、市内の感染状況に応じた新型コロナウイルス感染症対策をしながら、体育や部活動を実施し、児童生徒の体力を維持できた。
④昨年度と学校のクラス数に変更はないため、実績値は同じとなった。

2）成果目標の達成状況

実績比較			
	☐ 目標値の全てを上回った	☑ 一部の成果指標で目標値を上回った	☐ 目標値どおりの成果であった
	☐ 一部の成果指標で目標値を下回った	☐ 目標値の全てを下回った	

背景・要因

①学校が楽しいと思う児童生徒の割合は小・義（前期）学校で昨年度と比べて上昇はしたものの、目標値97.0%に対し93.0%で下回った。中・義（後期）学校は目標値90.0%に対し93.0%と目標値を上回ることができた。
②学力診断テストにおいて、小・義（前期）学校の実績値は目標値を1.1%下回り、中・義（後期）学校では、1.1%上回った。テストのその年の難易度が実績値の上下に関わる。
③体力テストにおいて、小・義（前期）学校の目標値は＋10.0%に対し実績値は+15.7%と目標値を上回った。また、中・義（後期）学校の目標値は+8.0%に対し実績値は+10.3%とこちらも目標値を上回った。
④適正規模を維持できていない学校数は、昨年度と変更はないが、目標値を下回る。

3．施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
令和3年度は、教育内容の充実に、重点をおいて事業を進めてきた。貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 「英語検定料助成事業」、「外国語指導助手招致事業（JET-ALT）」、「教育補助員配置事業」 桜川市は、英語教育を推進しており、「英語検定料助成事業」や「外国語指導助手招致事業（JET-ALT）」を活用し、特色ある事業として「ICT技術を活用した英会話交流事業（令和3年度は新型コロナ感染症のため未実施）」を行っている。 その中で、「英語検定料助成事業」は令和2年度より、助成人数、金額ともに増えて、制度周知の成果とともに、児童・生徒の英語に対する積極性があらわれた形である。 「外国語指導助手招致事業（JET-ALT）」については、令和3年10月に新たにフィリピンから2名を招致し、以降JET-ALTを3名体制に拡充して英語授業を行っており、ネイティヴな英語に触れることにより、児童・生徒の英会話への意欲向上・刺激となっている。 「教育補助員配置事業」は、特別な支援を必要とする児童生徒がいる学級において、担任の補助に入ることにより、学級が落ち着き、学ぶ環境づくりに直結している。担任にとっても、学級全体の児童生徒や個別の支援を必要とする児童生徒にとっても成果が顕著な事業である。	今後は、引き続き、外国語指導助手派遣事業、英語検定の助成事業等を活用しつつ、英会話交流をはじめ、英語能力の向上化を図って行く方針である。 GIGAスクール構想整備事業の進捗に伴い、タブレット端末の整備や、インターネット環境の整備は行われたが、それらを扱う教職員の能力向上が今後の大きな課題となっている。また、突発的なシステムエラー等の対応についても、学校教育課職員だけでは対応に限界もあり、システムメンテナンスの委託なども必要となってくる。 令和3年度において、新型コロナウイルス感染症対策による休校時のリモート学習の際に、双方向での授業の中で、通信が安定しないなどのトラブルも、少数であるが発生しており、対策が必要である。 児童生徒がタブレット端末を扱う上で、タブレット端末を使った仲間外れや、いじめなどが発生しないよう、それらの対応についてのルールの整備も課題である。